

2016年2月現在

## 衛生状態、医療事情一般

水道は都市の一部にはありますが、水質は劣悪です。市場や路地の屋台で販売されている飲食物は清潔とは言えず、下痢や嘔吐の原因となることが多々あります。ホテルのレストランでも食中毒を起こすことがあります。公衆トイレはなく、レストランなどのトイレも衛生状態はあまりよくありません。

日本人の受診に適する衛生度の私立クリニックは、コナクリ市内に数カ所確認できていますが、治療水準については日本と同じレベルは望めません。また高額の治療費がかかります。いずれもフランス語のみで英語が通じません。重症疾患への対応は期待できず、重症例は基本的にパリ等への緊急搬送が必要となります。以上より、海外旅行保険の加入は必須です。できれば、2000万円以上の医療・緊急移送費をカバーする高額加入が望ましいでしょう。大使館には医務官1名が常駐しており、医療情報の提供が可能ですので、体調がすぐれないときにはご相談下さい。

## かかり易い病気・怪我

### (1) マラリア

乾季から雨季への移行期に頻発する傾向があり、毎年3万例以上の発症が報告されます。重症化しやすい熱帯熱マラリアが大半で、当地における成人病気死因の約15%を占め第1位となっています。マラリア原虫に感染したハマダラカに刺された後、1~2週間の潜伏期間を経て突然の高熱症状にて発症します。頭痛・寝汗・倦怠感や下痢が見られることもあります。治療が遅れると命に関わりますので、早期診断・早期治療が大切です。他の疾患の可能性もありますが、突然の高熱時は速やかに医療機関を受診して下さい。

### (2) 感染性胃腸炎（下痢・嘔吐・発熱）

不衛生な食事・水を摂取することにより発症します。潜伏期間は様々です。年間を通して多い細菌性下痢・腸チフスの他、雨季にはコレラ・赤痢も発生します。コレラは米のとぎ汁のような水様下痢が特徴です。腸チフスは便秘と高熱が特徴です。よく加熱調理されたものを食べ、生野菜は避けて下さい。いずれも脱水を避けるため十分に水分を摂取して下さい。吐き気で水分が摂取できない場合、10回以上の下痢の場合、血便または発熱のある場合は、点滴や抗生剤服用が必要となりますので、医療機関を受診して下さい。

### (3) 狂犬病

野犬が多く見られます。狂犬病に感染している可能性がありますので、むやみに犬や野生動物に触れないでください。乾季に多いコウモリも感染している可能性がありますので注意してください。万一、野犬等に噛まれた場合は、軽症であっても必ず直ちに医療機関を受診してください。

#### (4)髄膜炎

髄膜炎菌の飛沫感染で、乾季に多く発生します。症状は、発熱・嘔吐・頭痛です。

早期に抗生剤投与が必要です。すぐ医療機関を受診して下さい。予防接種は効果がありますので、特に乾季にギニア滞在される場合には事前接種をお勧めします。

#### (5)麻疹（はしか）

近年ギニアでは麻疹が流行しています。これはギニアの予防接種体制がまだ完全ではないことが原因と考えられています。日本で麻疹の予防接種を完全に済ませていない方は、追加接種をお勧めします。

#### (6)性感染症

HIV 陽性率は一般人口で約 1.5%ですが、性産業従事者では約 26% (2010 年 Alternative Sud Guinea) と高く、その他の性感染症も多いため注意が必要です。

#### (7)交通事故

車両の整備不良、無謀な運転、劣悪な道路事情のため交通事故は多く、死亡事故も多発しています。

#### (8)皮膚病

特に雨期は湿度がたいへん高いため、様々な皮膚炎に罹りやすいです。洗濯物を屋外に干すと虫卵がついて皮膚病を起こすこともありますので、室内干しをおすすめします。クッションやソファ、ベッドのマットレスからダニに刺されることも多いので、かゆみ止めクリームがあると便利です。首都周辺の海・川は非常に不潔です。地方でも、寄生虫感染の危険性がありますので、川や池には入らないで下さい。

#### (9)エボラ出血熱

ギニアでは、2014 年 3 月に森林ギニア地方でエボラ出血熱が確認されて以降、累計で 3,804 人が感染（確定例、可能性の高い例、疑い例を含む）、うち 2,536 人が死亡しました。2015 年 10 月 29 日に最後の感染例が確認されて以降、ギニア国内では新規の感染者は発生しておらず、2015 年 12 月 29 日に世界保健機関（WHO）は、ギニアにおける流行終息宣言を発表しました。これを受けて、ギニアは 90 日間の監視強化期間に入っており、このまま新たに感染症の発生がない状態が継続すれば、2016 年 3 月 28 日に同期間が終了する予定です。

エボラ出血熱は、致死率が極めて高い危険な感染症です。ウイルスを持っているコウモリや野生動物への接触、患者や遺体の血液、分泌物、排泄物などから感染します。潜伏期間（2～21 日間）のあと発熱や頭痛などの症状に始まり、嘔吐、下痢、さらに悪化すると全身に出血傾向が出て死に至ります。

感染しないことが何より大切です。野生動物の肉（bush meat やジビエと称されるもの）を食さない、患者の看病や病死者の葬儀への参加は見合わせるなど感染予防を心がけて下さい。

## (10)ポリオ

ポリオは、口から入り腸の中で増えることで感染し、再び便を介して他の人に感染します。あるいは、咳やくしゃみによる飛沫を介して感染します。感染者の 1~2%に髄膜炎症状が見られ、0.1~2%が麻痺型ポリオとなります。ギニアでは、2015 年にワクチン由来ポリオウイルスによる急性弛緩性麻痺症例が発生しました。生ポリオワクチンを接種した場合、ワクチンウイルスが体外へ排出されるため、便中に排泄されるワクチンウイルスから免疫のない人に感染することがあります。日本では、平成 24 年 8 月まで経口生ワクチンが使用されていましたが、現在は注射の不活性化ワクチンが使用されています。渡航する人は、追加の予防接種を検討して下さい。

## 健康上心がける事

- (1) 日差しが強いので帽子・日傘・日焼け止めクリーム等を使ってください。
- (2) 熱中症予防のため十分に水分を取ってください。
- (3) 水道水は飲用には適しません。飲み水はミネラル・ウォーター (®COYAH 等) の利用が必須です。
- (4) 食中毒予防のため外出時は清潔なレストランでよく加熱調理されたものを食べてください。生野菜は避けてください。
- (5) 蚊帳や防虫剤を使用し夕刻以降は長袖・長ズボンを着用して蚊を防いでください。
- (6) 宿泊先は信頼の置ける清潔なホテルを選んでください。
- (7) 首都周辺の海・川は非常に不潔です。地方でも寄生虫感染の危険がありますので川へは入らないでください。高級ホテルのプールで泳いでも胃腸炎に感染することもありますのでご注意ください。

## 予防接種

### (1) 赴任者に必要な予防接種

必要：黄熱病

任意：A型肝炎，B型肝炎，破傷風，腸チフス，髄膜炎，狂犬病，コレラ，ポリオ，麻疹

### (2) 現地の小児定期予防接種一覧

現地の小児定期予防接種一覧					
	出生時	45日	10週	14週	9ヶ月
BCG	○				
ポリオ(IPV)	○	○	○	○	
5種混合(*)		○	○	○	
麻疹					○
流行性耳下腺炎	実施されていない				
風疹	実施されていない				
黄熱病					○

(\*)5種混合：DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)+B型肝炎+Hib

上記の表は「国家プログラム(無料)」ですが、私立クリニックではロタウイルス，肺炎球菌，その他も自費で注文取り寄せ可能です。

### (3) 小児が現地校に入学・入園する際に必要な予防接種・接種証明書

入学時と転入時に carnet rouge (生後から5歳までに接種したすべての予防接種記録カード)の提出が求められます。

## 病気になった場合(医療機関)

<コナクリ>

### (1) Clinique Ambroise Paré(クリニック アンブローズ パレ)

所在地：Quartier Camayenne, Corniche Nord, Commune du Dixinn, Conakry

電話：660 00 00 22/ 664 01 01 01 (救急車)

概要：私立の総合病院で邦人の利用実績もあります。全科対応。外科手術も可能です。レントゲン、臨床検査、超音波、胃カメラもあります。当地唯一のCT、MRIが稼働しており、入院設備もあります。医師はチュニジア人、モロッコ人、看護師はスリランカ人がギニア人スタッフを指導しています。一部英語のできるスタッフもいますが、基本的には仏語のみ。保険会社数社のキャッシュレスサービス、緊急移送にも対応しています。治療費用は

日本で保険外診療を受けるときと同程度です（例：3日間入院して各種検査と点滴治療を受けた場合、約30～40万円）

診療日・時間： 緊急時は24時間対応可能

### **(2) Clinique Pasteur (クリニック パストゥール)**

所在地： Quartier Manque Pas, Commune de Kaloum

電話： 664 26 98 53

概要： 市街地中心部にある私立クリニックで、全科対応。入院施設もあり一部手術も可能です。臨床検査、レントゲン、胃カメラ、超音波があり、保険会社のキャッシュレスサービスにも対応しています。

診療日・時間： 基本的に緊急時は24時間対応ですが、それ以外は科によって診療日が違うので電話で確認してください。

### **(3) Centre Medical Thermos (サントル メディカル テルモス)**

所在地： Quartier Manque Pas, Commune de Kaloum

電話： 664 63 15 59

概要： 市街地中心部にある私立クリニックで、6床の入院施設もあります。内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科等。手術にも対応していますが医師は1名です。臨床検査、レントゲン、超音波があります。邦人の利用実績もあります。

診療日・時間： 緊急時24時間対応。

<ンゼレコレ> (ンゼレコレについては2014年7月時点において確認)

### **(1) Centre Médical l'Espérance de NZao(クリニック ザオ)**

所在地：ンゼレコレ市からローラ (Lola) 市に向かう道路の左側の大きな建物。ンゼレコレから8km。

電話：664 42 49 50 (院長) / 664 80 96 01 (副院長) / 662 19 36 40 (医長)

概要： 私立の総合病院 (ミッション病院) でンゼレコレ在住外国人が利用しています。外科・内科・小児科・婦人科・歯科。小手術も可能です。レントゲン、臨床検査、心電図。入院設備もあります。

診療日・時間： 上記3名の医師の誰かに電話して時間を約束して下さい。

### **(2) Qlinique Médicale Huguette (ウゲッテ・クリニック)**

所在地： Ossud, N'Zekekore

所在地：ンゼレコレ市オスード (Ossud) 地区, ICRC 事務所近く

電話：664 30 17 78/ 622 20 26 75

概要： 私立のクリニックでンゼレコレ在住外国人が利用しています。外科・内科・小児科・婦人科。

診療日・時間： 外来 月-土, 救急はいつでも受付。

現地語一口メモ (公用語はフランス語)

医師 médecin メドサン

飲み薬 médicament メディカマン

頭痛 mal à la tête マラ ラ テェト

胸痛 mal au coeur マロ クール

腹痛 mal au ventre マロ ヴォントル

下痢 la diarrhée ラ ディアレ

発熱 la fièvre ラ フィエヴル

吐きけ des nausées デ ノゼ

怪我 blessure ブレシュール

蚊に刺された piqué par un moustique ピッケ パラン ムスティック

犬にかまれた Un chien m'a mordu. アン シアン マ モオルデュ

交通事故 un accident de voiture アン アクシダン ド ヴォアテュル

具合が悪いです Je me sens mal. ジュ ム サン マル

病院へ連れて行ってください Emmenez-moi a l'hôpital, s'il vous plaît. アムネ モア

ア ロピタル シル ヴ プレ